

アンダーソン・真・グレン

(あんだーそん・まこと・ぐれん)

札幌学院大学 RB 4年

昨季のリーグ戦初戦となった札幌大戦。36-8とリードして迎えた第3Q7分過ぎ、自陣11ヤードで迎えた第3ダウンの攻撃で、QBからボールを受けたアンダーソンが左オープンへ飛び出した。札幌大守備ラインを突破すると、守備バックも次々と振り切って激走。89ヤードを走りきり、そのままエンドゾーンへ駆け込んだ。第2Qにミスプレーから札幌大に反撃のTDを許した鬱憤を晴らすような、この日3本目のTDランだった。

178センチ、90キロの恵まれた体格に抜群のスピード、北広島西高時代にバスケットボールで培ったステップ

も加え、2年生から札幌学院大のラン攻撃の中核を務める。2年生で859ヤード、昨季も883ヤードを走り、2年連続でリーグのリーディングラッシャーに輝いた。「大学ではラグビーをやりたかったが、アメフト部から熱烈な勧誘を受けた。練習を見たら激しいぶつかり合いに血が騒いだ」が入部の動機。足の速さを生かすために、入部後はトレーナーからみっちり走り強化を受けた。昨季はけがのために北海道大戦を欠場したが、4試合で8TDを量産。883ヤードのラッシングはチームのラン獲得距離1395ヤードの6割を1人で担った計算になる。



そして主将で迎える今季。コロナ禍による変則日程で、Aブロック3チームによるリーグ戦は第2節（10月18日）に北海道大、第3節（11月1日）に帯広畜産大と対戦する。大学のコロナウイルス対策で、新入生の勧誘が十分にできず、2年生以上の14人で戦うシーズンだが「優勝はもちろんだが、それ以上に、自分たちがそれぞれのポジションで北海道で一番になるのが大きな目標」と宣言する。自らは3年連続リーディングラッシャーとともに「チームが盛り上がる走りをしたい。後輩たちから、一緒にできて良かったと言ってもらえるようなプレーをしたい」と決意する。9月下旬の週末、上京してXリーグ・オービックの練習に参加し、「スピードとフィジカルは通用した」と自信も持ち帰った。「卒業後の次の舞台につなげるためにも、北大戦ではTD3本を取りたい」と意気込む。

【プロフィール】

1998年12月18日、札幌生まれ。経営学部経営学科。父は米国出身で、札幌で外国語指導助手を務める。2018、19年と連続でリーグのベストイレブン（RB）にも選ばれる。好きな言葉は「力」。